

ケアマネジャーによる特養ショートステイに対する意識調査結果（概要）

平成29年3月／東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 特養分科会 ショートステイのあり方検討委員会

- 高齢者向けショートステイ(短期入所生活介護)事業の課題整理・現状把握を目的に、都内居宅介護支援事業所に勤務するケアマネジャー(介護支援専門員)を対象に実施した調査の結果。
- 担当エリア内のショートステイ事業所の充足状況について、「充足していないと思う」居宅介護支援事業所は35.6%。
- 居宅介護支援事業所が特養のショートステイ利用につなぐ上でネックとなった医療処置は、「インスリン注射」(22.2%)、「喀痰吸引」(39.6%)、「胃ろうの管理」(36.9%)。
- ショートステイ事業所の充足状況や、医療処置が必要な利用者へ対応などの面で、ケアマネジャーと特養ショートステイ事業所の間における課題意識の違いが浮き彫りになった。
- 参考値として、平成27年度実施「ショートステイの現状把握調査」(実施:東京都高齢者福祉施設協議会、対象:都内特養のショートステイ実施事業所)で類似の回答結果を掲載した。

【調査対象】 都内居宅介護支援事業に関する団体の会員事業所(545施設)
 【調査期間】 平成28年9月5日～9月26日
 【回答の状況】 回答率50.6%(276事業所)

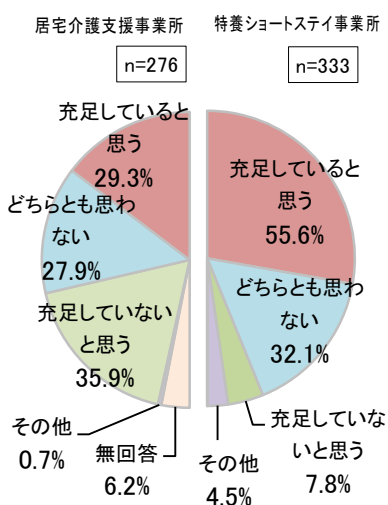
関係団体	対象数	回答数	%
東社協 東京都介護保険居宅事業者連絡会 居宅介護支援事業実施会員	249	141	56.6
八王子介護支援専門員連絡協議会 事業所会員	96	62	64.6
東京都介護支援専門員研究協議会会員 研修参加者	200	73	36.5

1 ショートステイ事業所の充足状況

- 担当エリア内のショートステイ事業所の充足状況について、35.6%の居宅介護支援事業所は「充足していないと思う」と回答している。
- 一方で、56.6%の特養ショートステイ事業所は「充足していると思う」と回答している。

【担当エリア内 ショートステイ事業所の充足状況】(n=276)

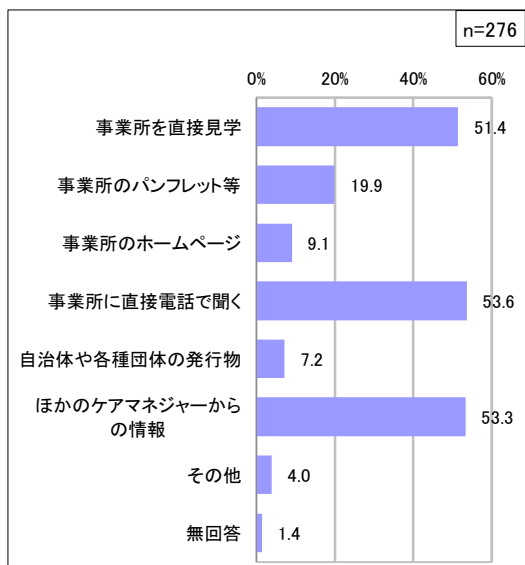
選択肢	居宅介護支援事業所		特養ショートステイ事業所 (参考:平成27年度調査)	
	回答数	%	回答数	%
全体	276	100.0	333	100.0
充足していると思う	81	29.3	185	55.6
どちらとも思わない	77	27.9	107	32.1
充足していないと思う	99	35.9	26	7.8
その他	2	0.7	15	4.5
無回答	17	6.2	0	0.0



- 居宅介護支援事業所における担当利用者に合うショートステイ事業所の見つけ方について、「事業所に直接電話で聞く」が最も多く、次いで「ほかのケアマネジャーからの情報」、「事業所を直接見学」の順に多い。

【ショートステイ事業所の見つけ方】(n=276)

選択肢	居宅介護支援事業所	
	回答数	%
全体	276	100.0
①事業所を直接見学	142	51.4
②事業所のパンフレット等	55	19.9
③事業所のホームページ	25	9.1
④事業所に直接電話で聞く	148	53.6
⑤自治体や各種団体の発行物	20	7.2
⑥ほかのケアマネジャーからの情報	147	53.3
⑦その他	11	4.0
⑧無回答	4	1.4



東京都高齢者福祉施設協議会について

東京都社会福祉協議会(東社協)東京都高齢者福祉施設協議会は、東京都内の特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、デイサービスセンターを会員とする組織です。会員が相互に研さんを重ねながらサービスの質を高め、利用者主体による高齢者福祉の発展を目的として、施設で働く職員を対象とした研修会や実践研究発表会(アクティブ福祉 in 東京)、調査研究活動、制度の拡充を目指した提言活動(ソーシャルアクション)などを行っています。

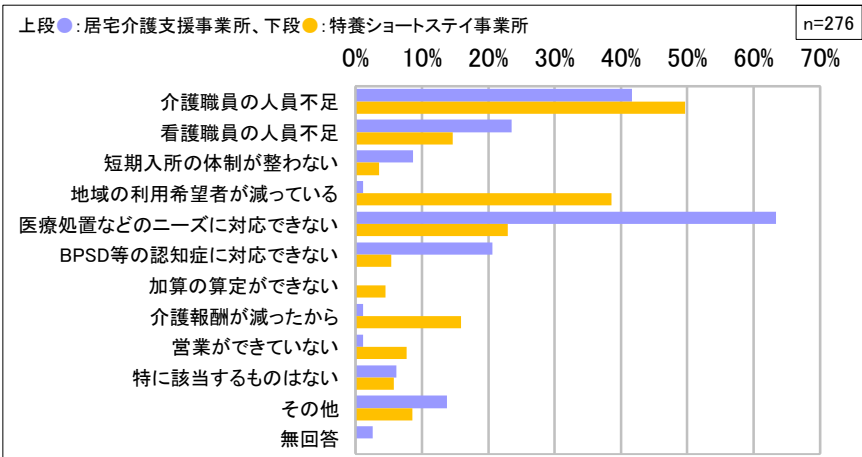
2 特養ショートステイの課題点について

- 居宅介護支援事業所から見る特養のショートステイ事業の課題について、「医療処置などのニーズに対応できない」が最も多く、「介護職員の人員不足」、「看護職員の人員不足」の順に多い。
- 一方で、特養ショートステイ事業所が運営上直面している課題について、「介護職員の人員不足」が最も多く、「地域の利用希望者が減っている」、「医療処置などのニーズに対応できない」の順に多い。

【特養のショートステイの問題点と思われること】(n=276)

※あてはまるもの2つを選択

選択肢	居宅介護支援事業所		特養ショートステイ事業所 (参考:平成27年度調査)	
	回答数	%	回答数	%
全体	276	100.0	314	100.0
介護職員の人員不足	115	41.7	156	49.7
看護職員の人員不足	65	23.6	46	14.6
短期入所の体制が整わない	24	8.7	11	3.5
地域の利用希望者が減っている	3	1.1	121	38.5
医療処置などのニーズに対応できない	175	63.4	72	22.9
BPSD等の認知症に対応できない	57	20.7	17	5.4
加算の算定ができない	0	0.0	14	4.5
介護報酬が減ったから	3	1.1	50	15.9
営業ができていない	3	1.1	24	7.6
特に該当するものはない	17	6.2	18	5.7
その他	38	13.8	27	8.6
無回答	7	2.5	0	0.0

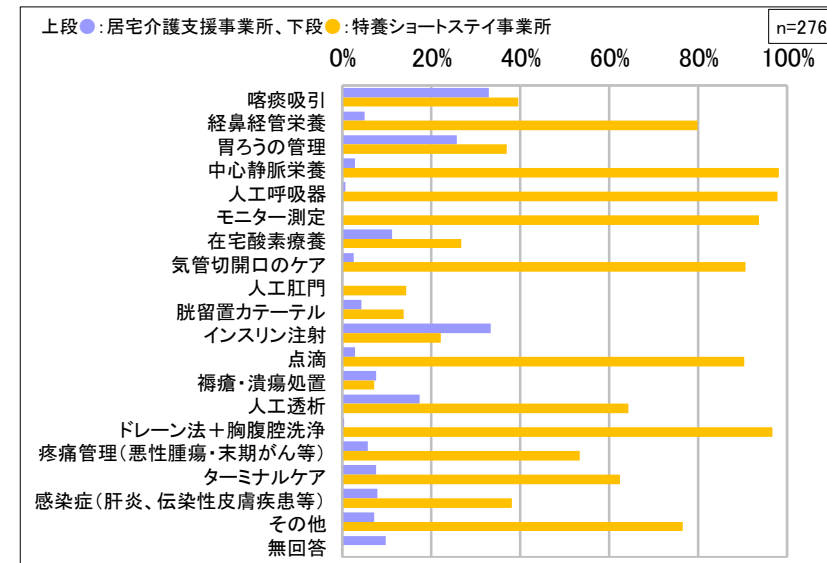


- 特養のショートステイ利用時、医療処置の対応において居宅介護支援事業所がネックとなったものについて、「インスリン注射」が最も多く、「喀痰吸引」、「胃ろうの管理」の順に多い。

- 対して受入れ可能な特養ショートステイ事業所は、「インスリン注射」22.2%、「喀痰吸引」39.6%、「胃ろうの管理」36.9%となっている。

【特養のショートステイ利用時、医療処置の対応でネックとなったもの】(n=276) ※居宅介護支援事業所についてあてはまるもの2つを選択

選択肢	居宅介護支援事業所		特養ショートステイ事業所 (参考:平成27年度調査)	
	回答数	%	回答数	%
全体	276	100.0	333	100.0
喀痰吸引	91	33.0	132	39.6
経鼻経管栄養	14	5.1	266	79.9
胃ろうの管理	71	25.7	123	36.9
中心静脈栄養	8	2.9	327	98.2
人工呼吸器	2	0.7	326	97.9
モニター測定	0	0.0	312	93.7
在宅酸素療養	31	11.2	89	26.7
気管切開口のケア	7	2.5	302	90.7
人工肛門	0	0.0	48	14.4
膀胱置カテーテル	12	4.3	46	13.8
インスリン注射	92	33.3	74	22.2
点滴	8	2.9	301	90.4
褥瘡・潰瘍処置	21	7.6	24	7.2
人工透析	48	17.4	214	64.3
ドレーン法+胸腹腔洗浄	1	0.4	322	96.7
疼痛管理(悪性腫瘍・末期がん等)	16	5.8	178	53.5
ターミナルケア	21	7.6	208	62.5
感染症(肝炎、伝染性皮膚疾患等)	22	8.0	127	38.1
その他	20	7.2	255	76.6
無回答	27	9.8	0	0.0



ケアマネジャーによる特養ショートステイに対する意識調査結果（概要）

平成29年3月 / 東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 特養分科会 ショートステイのあり方検討委員会

- 高齢者のショートステイ事業の課題整理・現状把握を目的に、都内居宅介護支援事業所の介護支援専門員を対象に実施した調査の結果。
- 担当エリア内のショートステイ事業所の充足状況について、「充足していないと思う」居宅介護支援事業所は35.6%。
- 居宅介護支援事業所が特養のショートステイ利用につなぐ上でネックとなった医療処置は、「インスリン注射」22.2%、「喀痰吸引」39.6%、「胃ろうの管理」36.9%。
- ショートステイ事業所の充足状況や、医療処置が必要な利用者へ対応状況からサービス利用につなぐ居宅介護支援事業所と、サービスを提供する特養ショートステイ事業所の間における課題意識の違いが浮き彫りになった。
- 参考値として、平成27年度実施「ショートステイの現状把握調査」(実施:東京都高齢者福祉施設協議会、対象:都内特養のショートステイ実施事業所)で類似の回答結果を掲載。

【調査対象】 都内居宅介護支援事業に関する団体の会員事業所(545施設)
【調査期間】 平成28年9月5日～9月26日
【回答の状況】 回答率50.6%(276事業所)

関係団体	対象数	回答数	%
東社協 東京都介護保険居宅事業者連絡会 居宅介護支援事業実施会員	249	141	56.6
八王子介護支援専門員連絡協議会 事業所会員	96	62	64.6
東京都介護支援専門員研究協議会会員 研修参加者	200	73	36.5

3 特養ショートステイに関する居宅介護支援事業所ケアマネジャーからの意見や要望（自由記述より一部抜粋）

予約の取り辛さ

- 当区では現在も利用2ヶ月前の1日(土・日・祭にあたりと翌平日)の9:00～、Telでの予約開始となり、利用家族の就労や独居利用者等の予約はケアマネジャーが行っています。なかなか繋がりません。これだけIT化が進んでいる時代にもう少し柔軟でスムーズな予約方法が有ると思うのですが声を上げて改善されず、ケアマネは有休を取る事も出来ず、朝一の訪問もあきらめ電話前にはりついています。
- 古くからある特養は、昔からのやり方を変えない。半年前からの予約、Telでの申し込み(早い者順)。ショート専門の所は、融通がもったきいている。

利用者・家族のニーズ対応

- 特養利用者がケアの中心となる併設のSSには軽介護の方はなかなかご案内できない。初回の利用となる時は、特にその後の継続利用を意識すると、ショートステイ専門の施設の方が見守り、日中の過ごし方ともに充実している傾向にあるため利用者本位で考えると、どうしてもそちらの調整を優先してしまいます。特養の相談員だけでなく、ケアワーカー側も受け入れに積極的になっていただくための取り組みを希望します。
- 現在「特養」のショートステイは従来型とユニット型があり、利用者(家族含)は利用料金の負担が少ない従来型を選ぶ方が多い。ユニット型のメリットも十分説明しているが、居室料の低い方を選択しているのが実情である。また初回利用の様子で(特に認知症の方)断ってくる施設もあり家族は落胆する事も多い。もっと寄り添った支援をしていただきたいと思う。

施設からの情報提供不足

- 入所希望の特養のショートステイを利用していると、入所の時の抵抗が少ないことは確かにあります。毎月利用している定期利用者は、状態把握もしっかりしていただけて助かっています。昼夜の状況がわかるのがショートなので利用時の情報をいただけるのも助かっています。
- ショートステイ利用中の状況報告が、ケアマネジャーにない。退所当日に転倒し、そのまま帰宅した利用者は、翌日から打撲斑がかなり広がり、デイサービス職員から報告を受け、恥ずかしい思いをした。後日、ショートステイ先へ訪問し、報告したが、通院の状況をきき、あっさりした態度で聞き流された。

医療依存度の高いご利用者の受入希望

- 医療依存度の高い方や、BPSDのある認知症の方たちは、介護している家族の負担はとて大きい。その負担の大きい方たちが利用できるショートは無いに等しい状況です。施設は、トライしようとする姿勢がないのも問題では。
- お泊まりデイに比べたら、柔軟性も予約も満足度、連携全てにおいてできていません。お泊まりより安いから利用しているだけです。緊急にも医療依存度にも対応できず、個室料をとる特養に未来はありません。

周辺症状のある重度認知症高齢者への積極受入

- 認知症で徘徊などの周辺症状があると、夜間の職員体制が少人数のため、対応が困難であると断れるショートステイ事業所が多い。日中はデイサービス等で対応できるが、主介護者がどうしても不在になった時の受け入れ(夜間)できる特養を増してもらいたい。

リハビリ機能の充実

- ショートステイに関しては、家族の都合や希望によって利用する機会が多く、利用者の意向がおざなりになってしまう場合が多い。その中で利用者も目的をもって活動に参加できるプログラムを検討してもらいたい。又、利用後、活動量が落ちた、依存的になったとの声が多く、次回の利用を躊躇させる方が多いのでその辺りが課題と思われる。

余暇活動の充実

- 特養では余暇活動がほとんどなく、1日中ボーっとして過ごさねばならない所がほとんどで、長くショートステイを利用すると、活動性が低下してしまうのではないかと、心配です。ショートステイでも、レクリエーションや機能訓練をお願いできれば安心しておすすめできるのですが…。